

在宅輸血に関する実態調査に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属溝口病院では「在宅テラス診療所なかはら」のご協力のもとで以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2026年2月24日～2028年3月31日

〔研究課題〕 急性期医療と在宅医療の連携による在宅輸血の現状と課題：後方視検討

〔研究目的〕

高齢の方が増える中で、病院での積極的な治療を続けるのが難しい、または望まない方々が自宅などで安心して過ごせる環境が必要です。しかし、輸血が必要な場合には多くの工夫や調整が必要です。現在、自宅で輸血を行う取り組みは一部で行われていますが、その実際についてはまだ十分に明らかにされていません。当院では、訪問診療クリニック「在宅テラス診療所なかはら」と連携し、輸血が必要な方のスムーズな在宅医療への移行に取り組んでいます。この研究の目的は、これまでに同クリニックの訪問診療で行われた輸血の実際と、当院から同クリニックに移った方の経過を振り返り、よかった点や、今後の課題を明らかにすることです。

〔研究意義〕

輸血を必要とする方が、自宅などの療養先に安心して移るには、医療機関同士の連携や、療養先での対応体制が重要です。この研究で得た知見は、今後の在宅輸血の体制整備や支援のあり方に活かされます。

〔対象・研究方法〕

2018年1月から2024年12月までの間に、「在宅テラス診療所なかはら」の訪問診療で輸血を受けた方を対象とし、当院から移行された方については、移行前後の経過も含め、詳しく検討します。診療記録をもとに、年齢、病気の種類、輸血の経過、療養の経過などを振り返り、在宅輸血の実際とその役割を検討します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属溝口病院 第4内科

情報提供機関：在宅テラス診療所なかはら 院長 齋賀真言

〔個人情報の取り扱い〕

この研究では、診療記録などの情報を使用しますが、お名前や住所など、個人が特定される情報は除外したうえで、特定の個人が分からないように加工、管理された形で分析します。また、この研究の結果が学会や論文で発表される場合も、個人が特定されることは一切ありません。研究に使用する情報は、当院および在宅テラス診療所なかはらが責任を持って適切に取り扱い、外部に漏れることがないように十分に配慮いたします。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先

研究責任者：氏名 小林彩香

所属1：帝京大学医学部附属溝口病院 第4内科 職名 准教授

所属2：在宅テラス診療所なかはら 職名 非常勤医師

住所：川崎市高津区二子5-1-1 TEL:044-844-3333（代表）